

天白麻雀 図柄紹介

「天白麻雀」の図柄となっている、
天白区の魅力あふれる、名所、自然、
マスコットキャラクターについて紹介します。

天白区マスコットキャラクター「かぼっち」



天白区制40周年を記念して平成26年に誕生しました。頭は「くりあじかぼちゃ」、体は「八事五寸にんじん」、いずれも天白区の特産野菜をモチーフにしており、胸元には「八事の蝶々」をつけています。

【性別】 どちらでもない

【誕生日】 平成26年7月16日

(このデザインに決まった日)

【血液型】 ビタミンA型

かぼちゃとにんじんにはビタミンAがいっぱい!!

【性格】 明るく、元気いっぱい、好奇心旺盛

「かぼっち」が誕生するまで



全国公募により749点ものキャラクターデザインが集まり、審査によって、現在のかぼっちのデザインに決定しました。

デザイン決定後、全国公募により愛称を募集し、応募総数1,253点、805種類もの愛称が集まりました。

そして、審査や区民まつりでの投票を経て愛称が「かぼっち」に決定しました。



「かぼっち」の活躍



かぼっちは、天白区のマスコットキャラクターとして、天白区役所が開催するイベントやキャンペーン、地域で開催されるイベントなどに登場し、地域の方とのふれあいや、キャンペーン活動のお手伝いなど、たくさんの活躍をしています。



かぼっちの「おともだち」



令和6年度に天白区制50周年を記念し、各学区にかぼっちの「おともだち」
となるキャラクターが誕生しました。



「かぼっちのおともだち」が誕生するまで



天白区制50周年を記念して全学区で開催された地域交流イベント「かぼっちミーティングinコミセン」の会場において、来場者の皆様から「かぼっちのおともだち」を募集しました。

応募された中から、学区での投票などによりおともだちが決定しました。



植田八幡宮



創建は不詳ですが、天正8年（1580）、植田城主横地氏の家臣、室賀久太夫が修造したといわれており、応神天皇を祀っています。境内にある植田八幡社古墳は、社殿の改修で削られてしまいましたが、その大きさは、前方部40m、後円部の高さ6m、全長80mもあったといわれています。

祭神は、応神天皇、初代植田城主横地秀綱、末裔の横地権蔵が合祀されています。

境内の大正天皇が皇太子時代、陸軍大演習を見学されたとき、愛馬「藤園」に御乗馬された場所には記念碑が建っています。

桜の道（植田・植田南学区内）



桜の時期になると、地下鉄「植田」駅の東（天白スポーツセンター北交差点）から植田中学校北交差点までの南北に伸びる役1.4kmの道は、道の両側に桜が咲き誇り、文字どおり「桜のトンネル」のようになっています。

この時期は車窓からも満開の桜を楽しむことができ。令和2年度には「まちなみデザイン20選」に選定されました。

きりょうぼし
寄鷺橋（天白川）



天白川は、日進市米野木町の三ヶ峯上池付近を源流とし、名古屋港に注ぐ流長22.7kmの二級河川です。

天白川には貴重な自然が多く残っており、鷺などの野鳥、四季折々の花や植物が河川敷を彩ります。

寄鷺橋は、その天白川と植田川の合流点にかかっており、橋からは沈む夕日がとても綺麗に見られます。

ごしょうこう
天白川護床工（天白川）



天白川護床工は、天白川と植田川との合流点につくられた河川管理施設です。

馬蹄形で段状という特異な形により見事に自然と調和をさせ、快いせせらぎの音を創出したところが高い評価を受け、平成4年度に「名古屋市都市景観大賞」を受賞しています。

しだれ梅（農業センター）



農業センターは昭和40年4月に開園した、市民が農業に親しみながら憩う農業公園で、令和6年3月にはリニューアルオープンし、畜産エリアの整備やバーベキュー広場などが新設されました。

農業センター内のしだれ梅園には、紅梅・白梅あわせて12品種約700本のしだれ梅が植えられており、全国有数の規模となっています。

竹林（相生山緑地）



123.7ヘクタール（約37万坪）という市内有数の広大な面積をもち、天白区内の野並・相生・山根の3学区にまたがっています。

標高10～60mの3つの台地と2つの谷筋から成り立つ起伏に富んだ地形に広大な雑木林が広がり、良好な自然景観を残しています。

アサギマダラ（相生山緑地）



羽を広げた大きさは10センチほどで、透き通った水色の羽がとても美しい蝶です。

春には南から北へ、秋には北から南へ海を越えて渡り、2000キロ以上の長距離を移動することもあります。

フジバカマの花に集まる習性があり、写真は相生山緑地でフジバカマの花の蜜を吸っているところを撮影されたものです。

ハツチョウトンボ（島田緑地自然生態園）



日本最小のトンボで、大きさは1円玉と同じ、2cm程度です。

成虫は5月から9月頃に観察でき、オスは鮮やかな赤色、メスは黒と黄色のまだら模様をしています。

写真は天白区高島にある、希少な植物や生物が生息する島田湿地内の島田緑地自然生態園で撮影されたものです。

シラタマホシクサ（島田緑地自然生態園）



東海地方の固有種であり、9月頃になると、細い茎の先に直径1センチ程度の白い玉のような花を咲かせます。

花の咲いた姿が白い玉や星のように見えることから名前がつけました。また、金平糖にも見えることから、「金平糖草」とも呼ばれています。

くりあじかぼちゃ（特産野菜）



栗の実を逆さにしたような、お尻のとがった特徴ある形をした西洋かぼちゃのもので一種で、ホクホクした食感と甘さが特徴です。

かぼちゃは国内各地で栽培されたり、季節によって海外から輸入されているので年中出回っていますが、夏が旬の野菜です。

八事五寸にんじん（特産野菜）



大正8年に天白区の農家が、東京の種苗会社から導入したニンジンの種から選抜したのがルーツとされています。

現在、市内での生産は当時ほど盛んではありませんが、愛知県にゆかりの深い野菜として「あいちの伝統野菜」にも選ばれています。

特徴は、色が濃く、肉質が良く、甘みが強く、味付きが良いことです。

マーガレット（区の花）



市制100周年を記念して募集が行われ、8種類の候補の中から、平成元年6月にマーガレットが区の花として制定されました。

3月から6月頃に花を咲かせる、高さ30～100センチほどの植物です。

花は5cm程度で、白色の細長い花びらと、真ん中の黄色い部分が特徴的ですが、ピンク、黄色の花もあります。

キンモクセイ（区の木）



市制100周年を記念して募集が行われ、8種類の候補の中から、平成元年6月にキンモクセイが区の木として制定されました。

甘い香りが特徴の植物で、9月から10月にかけて、枝にオレンジ色の小さな花が密集して咲きます。

天白区内の各小学校には、区制30周年や50周年の時に記念植樹がされました。

てんぱく音頭（区の唄）



市制100周年を記念して歌詞の募集が行われ、48名の方から51件の応募がありました。その中から審査委員会により審査が行われ、平成元年6月に制定されました。

天白川の流れと、恵まれた緑を背景に、ゆとりと活気に満ちたまちをめざす、天白区の姿を歌ったものです。

夏の盆踊りの季節になると、区内各地域で「てんぱく音頭」が踊られています。

てんぱく音頭 歌詞



春の陽射しに 桜の花が
咲いて彩る 天白川よ
みんな明るい 笑顔を寄せて
ころも一つに 結ぶ街
いりやあせ 名古屋の天白へ
ほんによいとこ ソーレソーレわが街よ

出会いふれ会い 情けがかよう
みどり豊かな 太陽の街
風もやさしく 小鳥が唄う
いつも楽しく 二人づれ
いりやあせ 名古屋の天白へ
ほんによいとこ ソーレソーレわが街よ

可愛いあの娘も マーガレットも
同じふる里 天白育ち
人の心を なごませながら
咲いてうれしい 街の花
いりやあせ 名古屋の天白へ
ほんによいとこ ソーレソーレわが街よ

浴衣姿に 見初めた人を
思い出させて ちようちん揺れる
祭り広場は なじみの顔が
みんなそろって 総おどり
いりやあせ 名古屋の天白へ
ほんによいとこ ソーレソーレわが街よ

胸にやさしく キンモクセイが
匂う街角 木遣がひびく
夢と希望の 灯りがついて
明日へ栄える 天白よ
いりやあせ 名古屋の天白へ
ほんによいとこ ソーレソーレわが街よ

八事の蝶々（伝統玩具）



竹と和紙を使い、羽を広げた蝶々をかたどって作られた素朴で愛らしい郷土玩具です。

明治初め頃、禄を失った尾張藩士の前田柳三右衛門が内職として作り始めたのが発祥とされています。

かつて行楽地として栄えた八事地域では、そば饅頭、湯（豆腐とともに「八事名物」の土産物として寺社の門前や遊園地で売られていました。

平針木遣り音頭 (伝統芸能)



木遣り音頭は元来、木材や石材を運ぶ時に力を合わせ士気を高めるために唄われた労働唄でしたが、現在では建物の上棟式・竣工式、結婚式などの祝言唄として伝承されています。

平針木遣り音頭(昭和31年・名古屋指定無形文化財)は、名古屋城築城(1610年)の際の築城木遣り音頭が伝えられていると言われています。

天白麻雀図柄地図



各学区…かぼっちの
おともだち

A…植田八幡宮

B…桜の道（桜色線部分）

C…寄鷲橋
天白川護床工

D…農業センター

E…相生山緑地

F…島田緑地自然生態園

★…天白区役所